司会：冒頭のあいさつ

それでは、お時間となりましたので、東京エレクトロン株式会社 2024 年 3 月期 第 2 四半期の決算説明会を開催いたします。本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。わたくし、司会進行を務めます、IR 室の八田です。よろしくお願いいたします。
それでは、本日の出席者の紹介をいたします。代表取締役社長・CEO 河合 利樹でございます。
　河合：河合でございます。どうぞ、よろしくお願いします。
続きまして、常務執行役員ファイナンス担当 川本 弘でございます。
　川本：川本でございます。本日はよろしくお願いいたします。
プレゼンテーションに先立ち、私から、本日の会の流れについてご説明させていただきます。これより、川本、河合のプレゼンテーションをお聞きいただきます。その後 18:30 まで、質疑応答のお時間を設け、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。本説明会は、Webex を 2 回線使い、日英の同時通訳でおこなっております。先日、メールでご案内させていただいたとおり、音声のみお聞きになりたい方は、電話でもご参加いただけますが、ご質問されたい方は、PC もしくはモバイル端末のアプリをお使いください。また、本説明会は機関投資家さま・アナリストさま向けの説明会となっております。大変申し訳ございませんが、回答は、従来どおり機関投資家・アナリストの方々のご質問に限らせていただきます。本説明会につきましては、後日、日英の音声配信を HP 上に掲載いたしますので、こちらも併せてご利用ください。
それでは、はじめに、川本より、「連結決算の概要」についてご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

本決算 連結決算の概要

川本 弘（常務執行役員 ファイナンスユニット GM）

改めまして、川本でございます。それでは、当社 2024 年 3 月期第 2 四半期連結決算についてご説明申し上げます。

損益状況（四半期）：スライド 4

まずはじめに、四半期ごとの損益状況についてご説明申し上げます。青枠の部分を中心にご参照ください。
第 2 四半期の売上高は、主に中国向けの売上の増加に伴い、前四半期比 9.2%増加の 4,278 億円となりました。売上総利益は前四半期比 16.9%増加の 1,897 億円。売上総利益率は、売上増やプロダクトミックスなどにより、2.9 ポイント改善の 44.3%となりました。営業利益は、16.6%増加の 961 億円となりました。営業利益率に関しましては、研究開発費が増加したものの、1.5 ポイント増加の 22.5%とな

りました。また、親会社株主に帰属する当期純利益でございますが、前四半期比 13.8%増加の 731 億円となりました。なお、表の一番右には前年同期比の数字が入っております。主要顧客の投資調整により、前年同期比でございますが、売上・利益ともに大きく減少しております。青枠真ん中下にあります研究開発費でございますが、成長に向けた研究開発投資を継続しており、前四半期、 前年同期比ともに増加し、510 億円となりました。設備投資額は 176 億円。減価償却費は 125 億円となりました。

損益状況（四半期）：スライド 5

こちらは、先ほどご説明させていただいた業績を時系列にグラフで示したものになります。ご確認いただければと思います。

損益状況（半期）：スライド 6

こちらは半期ベースの業績を示したものになります。一番右は 8 月 10 日に発表しました今上期の業績予想数値、その左は前期下期との実績対比です。今上期につきましてはすべての項目において、8 月 10 日発表の計画を達成いたしました。一方、前期下期との比較では、主要顧客の投資調整により、売上・利益ともに減少しております。なお青枠下から 2 番目の設備投資額が、前半期と比較すると大きく増加しております。こちらは宮城地区での研究開発棟建設が要因でございます。

地域別売上高構成比 （FY2024 Q1～Q2）：スライド 7

こちらのグラフは、「地域別売上高」をしめしたものになります。今期から単一セグメント開示となっておりますので、全社合算の地域別売上高構成比のグラフとしております。第 2 四半期の売上高構成比については、第 1 四半期に引き続き、中国における成熟世代向け設備投資が活発におこなわれた結果、中国売上比率は、ご覧のとおり 42.8%と高水準となっております。

SPE 新規装置 アプリケーション別売上構成比（四半期）：スライド 8

こちらは、「SPE 新規装置のアプリケーション別売上構成比」となっております。第 2 四半期は、下からロジック 67%、不揮発性メモリ 5%、DRAM 28%となります。DRAM とロジックファウンドリにおいては、こちらも中国顧客の投資が活発におこなわれた結果、前四半期から売上高が上昇しております。

フィールドソリューション売上高（四半期）：スライド 9

こちらは、「フィールドソリューション売上高」になります。第 2 四半期は、1,044 億円となりました。主に、改造案件の増加により前四半期比から 41 億円の増加となっております。

貸借対照表（四半期）：スライド 10

続きまして、「貸借対照表」をご説明いたします。資産合計は、2 兆 1,917 億円となりました。現金同等物は、3,626 億円。のちほどお伝えします自己株式の買い付けもあり、前四半期から 383 億円減少いたしました。売上債権および契約資産は、3,677 億円。棚卸資産は、今後の出荷に備えた調達などにより、前四半期比 319 億円増加の 7,485 億円となりました。続いて、右側の負債・純資産でございます。負債は、前受金の増加などにより、214 億円増加の 6,614 億円となっております。純資産は、1 兆 5,302 億

円となりました。第 2 四半期に純利益 731 億円を計上する中、自己株式の買付が進み、前四半期末から 87 億円減少いたしました。なお、自己資本比率は 69.2%となっております。

キャッシュ・フロー（四半期）：スライド 11

続きまして、「キャッシュ・フロー」の状況を簡単にご報告いたします。この四半期における営業キャッシュ・フロー獲得は、748 億円でございました。投資キャッシュ・フローの支出は、234 億円。財務キャッシュ・フローの支出は、自己株式の買い付けなどにより、908 億円となりました。これらの結果、フリーキャッシュフローは、プラスの 514 億円となりました。

自己株式の取得状況：スライド 12

最後に、前回の決算で発表いたしました「自己株式の取得状況」をお伝えいたします。2023 年 9 月 30 日をもちまして、5 月 11 日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得が終了いたしました。取得した株式の総数は、589 万 9,200 株、株式の取得額の総額は、1,199 億円となりました。以上、2024 年 3 月期 第 2 四半期「連結決算の概要」についてご報告申し上げました。

司会：次のプレゼンテーションの紹介

それでは、続きまして、CEO 河合より、「事業環境および業績予想」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

事業環境および業績予想

河合 利樹（代表取締役社長・CEO）

本日はお忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございます。私の方から事業環境および業績予想についてご説明いたします。

事業環境（2023 年 11 月時点での WFE 市場の見方）：スライド 14

まず、「事業環境」についてご説明いたします。本年の WFE 市場の見通しにつきましては、3 カ月前まで、70～75B ドル程度と見ておりましたが、今回、85～90B ドル程度に上方修正しております。先端ロジック/ファウンドリで投資延期が見られる一方、成熟世代における中国顧客の投資がより一層加速しています。また、昨年発生した部材不足の影響などにより、露光機など、一部装置の納入が遅延していましたが、これらが今年、期ずれで納入されたことによる市場押し上げ効果もあると見ています。この 2 点により、CY2023 WFE 市場は、想定を上回り着地する見込みです。市場の本格的な回復のタイミングは、当初の見通しより若干遅れておりますが、WFE 市場は、2024 年、25 年の 2 年間の合計で、200B ドル程度に成長すると見ております。その牽引役としましては、年率 31%で拡大する AI サーバーが挙げられます。最先端の CPU、DRAM、NAND のほか、生成 AI 向け GPU、メモリを積層しパッケージングする HBM などの事業機会があります。加えて、サーバーだけでなく、PC やスマートフォンなどのデ

バイスにも AI が搭載されることや、コロナ期に購入した製品の買い替え需要、そして企業の IT 投資も半導体需要を押し上げる要因になると見ています。これらを背景に、2025 年の WFE は、過去最高の市場規模となる見込みでございます。

FY2024 Q2 事業進捗：スライド 15

次に、「FY2024 第 2 四半期の 事業進捗」についてご説明します。業績については、先ほど川本から説明しましたとおり、売上・利益など、すべての指標において計画を達成しました。前回の決算説明会の際にご紹介した極低温エッチングなど、先端プロセス向けの革新的な技術開発や顧客評価は、順調に進捗しています。成長著しいアドバンスドパッケージ分野においても、ボンダーを中心とした引き合いが活況です。また、持続的な成長を見据えた積極的な投資も、緩めることなく実行しています。7 月には、成膜装置、ガスケミカルエッチング装置、パターニング技術、およびプロセスインテグレーションの開発を目的とした、山梨の新開発棟が竣工しました。また、非財務領域においても大きな進捗がありました。6 月には、国内全事業所で、再生可能エネルギー使用比率 100%を達成しました。9 月には、山梨事業所において、サプライチェーンにおけるサステナビリティを推進する国際的な業界団体である RBA による監査で、最上位であるプラチナ・ステータスを取得。10 月には、温室効果ガス排出量削減目標について、国際的なイニシアティブである SBTi による評価を経て、Science Based Targets、「科学と整合した目標設定」であることの認定を取得しました。また、5 月に発表しました、1,200 億円を上限とする自己株式取得につきましても、9 月末日までに取得完了しております。

FY2024 業績予想：スライド 17

次に、「FY2024 の業績予想」について説明いたします。上期の実績を反映し、売上高の予想は 300 億円上方修正いたします。また、研究開発費についても 50 億円増額し、過去最高の 2,050 億円を計画しています。これらを反映した通期業績予想は、売上高 1 兆 7,300 億円、営業利益 4,010 億円、当期純利益 3,070 億円となる見込みです。

FY2024 SPE 新規装置売上予想：スライド 18

こちらは、「FY2024 の SPE 新規装置の売上予想」です。ご覧のとおり、上期は 6,026 億円の売上となりました。下期予想は変わらず、6,900 億円の見込みです。今上期を底に、SPE 新規装置の売上は今後回復していくと見ています。

FY2024 研究開発費・設備投資計画：スライド 19

次に、「研究開発費と設備投資の計画」です。FY2024 は、いずれも過去最高となる見通しで、先ほど申し上げたとおり、研究開発費は 2,050 億円を計画しています。設備投資、減価償却費は、当初計画と変わらず、それぞれ 1,240 億円、570 億円を見込んでおります。引き続き、拡大する市場と多様化する最新の技術ニーズに応えるため、積極的な研究開発と設備投資をおこなってまいります。

FY2024 配当予想：スライド 20

次に、「配当予想」についてです。上期の実績を反映し、中間配当を 20 円増額し、1 株当たりの配当は、通期で 340 円を予定しております。

総還元額：スライド 21

こちらは、「総還元額の推移」になります。今期の総還元額は、先ほどご説明した 1 株あたり配当額と、自己株式取得を合わせ、2,777 億円と、過去最高の総還元額になる見込みです。

TEL 60 years：スライド 22

なお、明日、2023 年 11 月 11 日、東京エレクトロンは創立 60 周年を迎えます。長年にわたる、ステークホルダーの皆さま方の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。今後も、さらなる株主価値の向上に努めてまいります。私からのご報告は以上となります。ご清聴ありがとうございました。